

団地のつながりを取り戻す連携プロジェクト

活動場所：伏見区／南浜学区桃陵団地とその地域周辺

活動時期：平成 28 年 8 月～

発表団体

龍谷大学政策学部 Ryu-SEI GAP
「学生団体 はうすまいる」



連携メンバー

桃陵サロン運営有志グループ
南浜学区社会福祉協議会
桃陵連合自治会
京都市伏見いきいき市民活動センター

活動内容

私たちが拠点とする桃陵団地では、住民の減少・高齢化により住民同士が交流する機会が減り、高齢者が孤立化し、安否確認が厳しい状態になっていた。その状況に危機感を抱いた住民有志が高齢者のコミュニケーションを目的として「桃陵すこやかサロン」を作り、「学生団体 はうすまいる」は運営のサポートを行ってきた。住民同士が互いを気にかけ合う「ほっとけない関係づくり」こそがこの問題の解決になるのではないかと考え、「学生団体 はうすまいる」と住民の方が、これからの団地について考え、話し合う場として「桃陵シニアの暮らしを考える会」を設立した。

さらに、「桃陵 HAND s」(団地百貨店)というイベントを企画し、野菜市・子ども縁日・バザー、無料カフェスペースなどのブースを住民の方々と協働して運営し、住民の交流の場となるように活動している。

また、「桃陵 HAND s」開催の案内、団地内の情報などを掲載した「団地だより」の作成・配布を行っている。

取組の成果・活動で工夫した点

「桃陵シニアの暮らしを考える会」を設立し、より多くのシニアの方が「桃陵 HAND s」のイベントに参加してもらえるように住民の方々と意見交換を行うよう努めた。イベントの運営を手伝って頂いた方々全員にオリジナル T シャツ「団地 T シャツ」を着用してもらい、一体感・統一感を出す工夫をした。子ども向けブースは、保護者の方を含む大人の方も参加して楽しめるようにした。

「団地だより」などの広報物は温かみを出すために手書きにこだわった。しかし、作業の進捗に遅れが発生し、発行が「桃陵 HAND s」開催日の直前になってしまったので、本文のみをパソコン打ちにすることで、作業効率の向上に努め、その後は開催日の 3 週間前までに配布するようにした。

連携メンバー・役割

桃陵サロン運営有志グループ	桃陵サロンの主催運営と、団地百貨店の共同開催。
南浜学区社会福祉協議会	団地百貨店の共同開催。
桃陵連合自治会	団地百貨店の広報協力、団地通信の配布・掲載協力。
京都市伏見いきいき市民活動センター	企画相談、アドバイス、団地百貨店のゲスト紹介等。

今後の課題・目標

◆今後の課題

第一回「桃陵 HAND s」のアンケートの結果、年齢層の偏りや男性の方の参加率の低さ、参加者の固定化が目立った。

また、同じ桃陵団地内でも「桃陵 HAND s」開催場所から離れている団地や、高層階に住む高齢の住民など「桃陵 HAND s」に来たくても来ることができない人」に、今後どのようなアプローチができるかを検討している。

◆目標

今後は、バザーの実施や他団体の協賛、住民の方へのアンケート調査を行うことにより、「桃陵 HAND s」のブースを充実させ、参加者の拡大を図る。また、広報活動にも力を入れ、あらかじめ「団地だより」の配布時期を定め、開催日などを伝わりやすくするよう工夫していく。

現在、顧客として「桃陵 HAND s」に関わってくださっている住民の方にも、運営側へ回ってもらい、最終的には、私たち学生がいなくとも住民同士で「桃陵 HAND s」のようなイベントを開催してもらえるように、イベントを通して住民間の繋がりを強めてもらうことが目標である。



関連 WEB サイト :Ryu-SEI GAP ホームページ <http://ryu-sei-gap.jp/>
(団体ページ準備中)